

栃木県水田農業レポート（令和元（2019）年8月号）

栃木県農業再生協議会

栃木県水田農業レポートは、農業者の皆さまが需要に応じた生産・販売を進めていく上で、農業経営の改善や作付計画の判断に役立てていただくため、栃木県産米に関する需給動向や価格動向等の情報をお知らせしております。

1 主食用米

（1）県産米の在庫状況

令和元年6月末における県産米の在庫量は8.22万トンであり、前年同月（平成30年6月末）よりも0.66万トン多くなっています。
また、全国の在庫量（合計）における本県シェアは、毎月上昇しております。

年.月	栃木県産(万トン)			全国(万トン)	本県の全国シェア
	30年産米	29年産米	合計①	合計②	①÷②(%)
H31.1	14.48	0.91	15.41	282	5.46
H31.2	13.56	0.61	14.19	258	5.50
H31.3	12.45	0.43	12.88	227	5.67
H31.4	10.79	0.32	11.12	192	5.79
R1.5	9.31	0.24	9.56	162	5.90
R1.6	8.03	0.18	8.22	132	6.23

※ 年産の特定できない未検査米等が含まれているため、合計は一致しません。

（農林水産省「米に関するマンスリーレポート」より引用）

（2）県産米の相対取引価格の推移（平成30年産米）

令和元年6月末における県産米の相対取引価格は、「なすひかり」については、前月（令和元年5月末）よりも価格が上昇しています。

年.月	栃木県産(円/60kg)			全国
	コシヒカリ	あさひの夢	なすひかり	全銘柄平均
H31.1	15,568	14,894	15,407	15,709
H31.2	15,677	14,915	14,909	15,703
H31.3	15,641	14,915	15,019	15,722
H31.4	15,517	14,951	15,038	15,777
R1.5	15,623	14,815	14,866	15,732
R1.6	15,503	14,481	14,994	15,702
出回り～R1.6月 までの平均	15,612	14,816	14,989	15,689
昨年同期間	15,463	15,016	14,973	15,591

※ 相対取引価格は、運賃、包装代、消費税を含む1等米の価格の加重平均

（農林水産省「米に関するマンスリーレポート」より引用）

(3) 県産米の集荷・契約・販売状況（累計、うるち米、令和元年6月末現在）

3銘柄とも、集荷数量、契約数量において、前年同月比を上回っておりますが、コシヒカリの販売数量は、前年同月比を下回っております。

なお、過去3年の販売数量は、27年産が92.7千トン、28年産が108千トン、29年産が95.1千トンです。

	平成30年栃木県産(千トン)			計
	コシヒカリ	あさひの夢	なすひかり	
集荷数量	106.7	9.6	9.0	136.3
(前年同月比)	(107%)	(119%)	(123%)	
契約数量	99.4	8.8	7.3	125.9
(前年同月比)	(109%)	(117%)	(116%)	
販売数量	56.9	5.7	5.5	74.8
(前年同月比)	(98%)	(189%)	(119%)	

(農林水産省「米に関するマンスリーレポート」より引用)

【トピック】新市場開拓用米（輸出用米）の取組事例

米の新たな販路を開拓するため、平成30年度から輸出を開始した県内の生産者が実施した取組や経緯等について御紹介します。

《経営概況》

従業員数：5名 経営面積：米40ha（主食用米30ha、WCS10ha）、その他（麦等）30ha

《輸出の取組を始めたきっかけ》

国内の人口減少に伴い国内消費の先細りが懸念されるので、新たな販売先を開拓するために、輸出に興味を持つようになった。

《輸出取組の概要》

輸出量：5,400kg(180袋) 輸出先：シンガポール
 品種：とちぎの星 販売：国内の輸出事業者へ販売
 輸出ルート：玄米を横浜の倉庫に納品（紙袋）→船便で輸送→現地精米により販売

《輸出開始までの流れ》

国の事業を通じて輸出業者とマッチングし、その後は直接業者とやりとりを行い、業者への販売価格の交渉や、納品場所を決定した。業者へ納品後、出荷した米の現地での販売先や販売形態などの詳細について輸出業者と意見交換した。

《取り組まれた感想》

納品までは自分で確認したが、現地での販売状況については業者から話を聞いただけで、まだ実際に見ていない。今後の取引を考えると、海外における日本米の反応なども気になるので、輸出業者とのやり取りや、情報収集のほか、現地で販売状況を確認したい。

《今後の展望》

今後も米生産をしていきたいが、国内販路の縮小と米の生産過剰による価格の下落を想定すると、経営安定のためには海外への販路も必要になると考えている。令和元年度の輸出用米の作付は平成30年度の2倍に設定している。今後は単価も考慮しつつ輸出量を計画し、拡大できればと考えている。

【お問い合わせ先】 栃木県農政部経済流通課農産物ブランド推進班（TEL028-623-2299）

2 野菜

県では、県内における加工・業務用野菜の産地化を促進するため、産地と県内食品加工企業等との取引の優位性に関する事例調査を実施しました。

調査では、市場出荷と比較して出荷調製作業の手間の削減、物流費の削減、地元食材使用の商品開発（需要創出）、商談や取引が円滑に進む等のメリットを確認できました。

世帯構成の変化などにより、食の簡便化・多様化が進展し、加工・業務用野菜の需要が増加しています。

県内食品企業と連携した露地野菜の生産に取り組んでみてはいかがでしょうか。

(1) 県内食品企業等との契約取引の優位性（まとめ）

(a) 出荷調製作業の削減

- 加工・業務向けの出荷（20kg コンテナ出荷、鉄コンテナ出荷、簡素規格での出荷等）に係る出荷調製作業の手間は、市場出荷や直売所へのお荷（袋詰め出荷）と比較して2～5割削減



直売向け出荷規格



加工向け出荷規格

※出所：「野菜クラスター育成にあたって」（平成31年3月）より

(b) 物流費の削減

- 物流費について、調査した事例では、栃木県産たまねぎは佐賀県産たまねぎより約25円/kg有利（食品企業着値）

(c) 地元食材のニーズへの対応

- 地元食材を使った商品開発が可能（「栃木県産〇〇サラダ等」）

(d) 相互の意思疎通による商談や取引の円滑化

- 現地視察等の商談をスムーズに実施
- 頻繁な商談により取引品目が増加

※詳細は以下の県ウェブページに掲載しておりますので、御確認ください。

http://www.pref.tochigi.lg.jp/g05/kouzou/h29engeitaikoku_suisinhoshin.html

(2) 令和元（2019）年度県内食品企業等と産地のマッチング商談会

11月22日（金）に県庁会議室で開催します。御興味のある方は、お近くの県農業振興事務所にお問い合わせください。企業との直接契約は「商談や代金決済の面で不安」という方は、お近くのJAに御相談ください（商談会にはJAも参加可能です）。

【トピック】水田を活用した土地利用型園芸の生産拡大の取組について

県では、水田における露地野菜への転換面積が概ね 10ha 以上、又は販売額概ね 5,000 万円以上を目指す産地をモデル産地として設定し、設定から 3 年間、ソフト・ハード両面を合わせたパッケージ支援を行い、地域の実情に応じた産地づくりを支援しています。

現在、モデル産地として設定されている 16 地区で、生産拡大に向けた取組が行われています。今後、水田を活用して露地野菜を生産していく大規模生産者、土地改良区等の一定地区でまとまって露地野菜の生産を目指す皆様、露地野菜の生産者グループの皆様は、県農業振興事務所に御相談ください。

《主な支援内容》

- ・関係者と連携し、地域に適した品種の導入や栽培技術の確立支援
- ・専門家の派遣、企業等とのマッチング支援などの販路開拓支援
- ・定植機、収穫機等の導入支援 等

《モデル産地一覧》

地区名	産地数	品目
河内	2 地区	たまねぎ、さつまいも
上都賀	1 地区	こまつな、ほうれんそう
芳賀	2 地区	たまねぎ、ねぎ、にんじん
下都賀	2 地区	ねぎ、レタス、かぼちゃ、白菜 他
塩谷南那須	5 地区	ねぎ、たまねぎ、さつまいも、えだまめ
那須	2 地区	たまねぎ、ヤマトイモ
安足	2 地区	キャベツ、ねぎ
合計	16 地区	延べ 23 品目



【モデル産地のねぎの収穫機の実演】



【モデル産地のたまねぎの収穫作業】

【土地利用型園芸に関するセミナー等の開催予定の御案内】

- ・令和元年 11 月上旬：加工・業務用野菜の契約取引について
- ・令和 2 年 1 月 22 日：園芸大国とちぎづくり推進大会（土地利用型園芸コンクール授賞式 等）

栃木県水田農業レポートは、年 3 回（1 月、6 月、8 月）発行しております。
過去のレポートはこちら。

栃木県水田農業レポート

検索